

教材研究會編纂

岡山縣誌

景山書房發兌



岡山縣誌目次



岡山縣  
 上道郡、赤松郡  
 和氣郡、邑久郡  
 兒島郡、都窪郡  
 吉備郡  
 淺口郡、小田郡、後月郡  
 川上郡、阿哲郡、上房郡  
 真庭郡、苫田郡  
 勝田郡、英田郡  
 久米郡、御津郡  
 附錄

一 丁  
 二 丁  
 四 丁  
 六 丁  
 七 丁  
 八 丁  
 十 丁  
 十一 丁  
 十二 丁  
 十四 丁  
 十五 丁

明治  
 27 4 16  
 内交



序言

一本書は教材研究會が生徒に授くるために著はされ金川中學校教諭沼田頼輔先生の校閲を経られたるものなるが今般赤磐郡内高等小學校一般に使用すること、なりたるを以て弊店特に請ふて許を得茲に數多の圖畫を挿入して出版すること、はなしぬ  
一本書は一課を二時間に授くるの豫定に編纂せり  
一本書の卷首に白紙を附せるは學校誌、村誌、郡誌等各口授の要点を記入せんが爲めなり

岡山縣誌

論

岡山縣は備前備中美作三國の總稱にして、  
一市十九郡に分たる。東は播磨西は備後北  
は因幡伯耆に界し、南は海にのぞむ。この三  
國と備後とは古吉備國といひし地にして、  
神武天皇御東征のとき、久しく駐まりた  
まひしと云ふ。北部は山地なれども、南部に  
一帯の平野あり、海岸には港多く、内地には



吉井旭・高粱の三大川流れ、鐵道縱横に通ずるが故に、交通及灌漑によるし、氣候おほむね溫和にして、土地肥ゑ、多く米麥を産す、製造品には綾蔴、麥稈、眞田山中煙草等あり、

### 岡山市

岡山縣廳のある所にして、旭川の下流に跨がり、人口凡六万あり、元池田氏居城の地にして、岡山城は、今尙天



後樂園と岡山城の圖

主閣を存せり。後樂園は我國に名高く、東山公園と共に風景まことによるし。亞公園の七階樓に登りて、市内を眺むれば、數多の商家軒をならべ、諸役所、學校多く散在し、會社工場の煙突さかんに



煙<sup>けいり</sup>を吐<sup>は</sup>くを見るべし。市の西北に、山陽・中國  
 兩鐵道の停車場<sup>すてーしよん</sup>あり、南三幡港に近きを以  
 て、水陸の交通よろしく、商業甚盛んなり。吉  
 備團子<sup>びだん</sup>を市の名産<sup>めいさん</sup>とす。予は、これより縣下  
 の旅行<sup>りょこ</sup>を思ひたち、先、上道郡に向ふ

上道郡・赤磐郡

上道郡南部一帯の平野を、沖新田<sup>おきしんでん</sup>と云ふ。池  
 田光政の時、その臣津田永忠<sup>つたながた</sup>の策を用ひて  
 開きしなり。百間川も、亦、當時熊澤蕃山<sup>くまざわばんざん</sup>の計<sup>はかり</sup>

なりしと云ふ。光政は名君なるが上、この賢



熊澤蕃山肖像

臣を用ひたるを以つて、  
 ますく名あり。吉井川  
 に沿へる西大寺町は岡  
 山を距る僅<sup>わづか</sup>に三里、九幡

港に近きが故に商業盛んなり。長岡驛より  
 汽車にて東し赤磐郡瀬戸<sup>せと</sup>に着<sup>つ</sup>く。龍天山<sup>りゅうてんざん</sup>は  
 北境<sup>きたまが</sup>の高山なり。本郡は、近頃織物業盛んに  
 行はれ多く木綿を出す



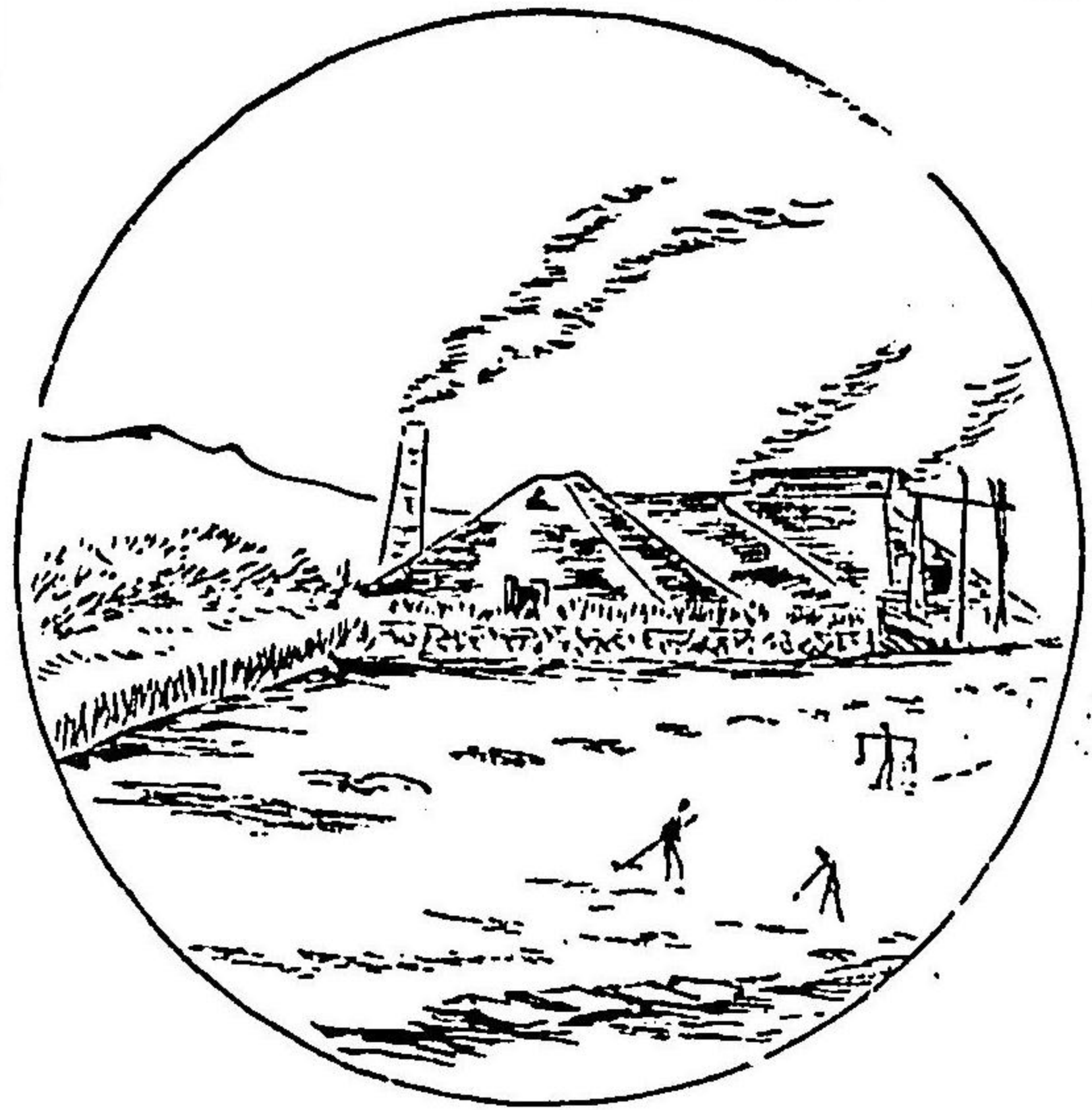
### 和氣郡・邑久郡

瀬戸驛より汽車にて東すれば半時間なら  
 ずして和氣郡和氣町に達す、吉井川岸にあ  
 りて商業盛んなり、忠臣和氣清麿は、この郡  
 の生れなりしと、熊山・天神山・舟坂峠など名  
 高き古跡多し、三石蠟石・伊部焼を名産とす、  
 吉永驛より南一里なる閑谷巖を見、片上よ  
 り船に乗て邑久郡に入り、虫明の瀬戸を過  
 ぎて、牛窓港に着す、備前第一の良港なり、長

船の劔は古、その名高く、犬島よりは花崗石  
 を出す

### 兒島郡・都窪郡

味野鹽田の圖



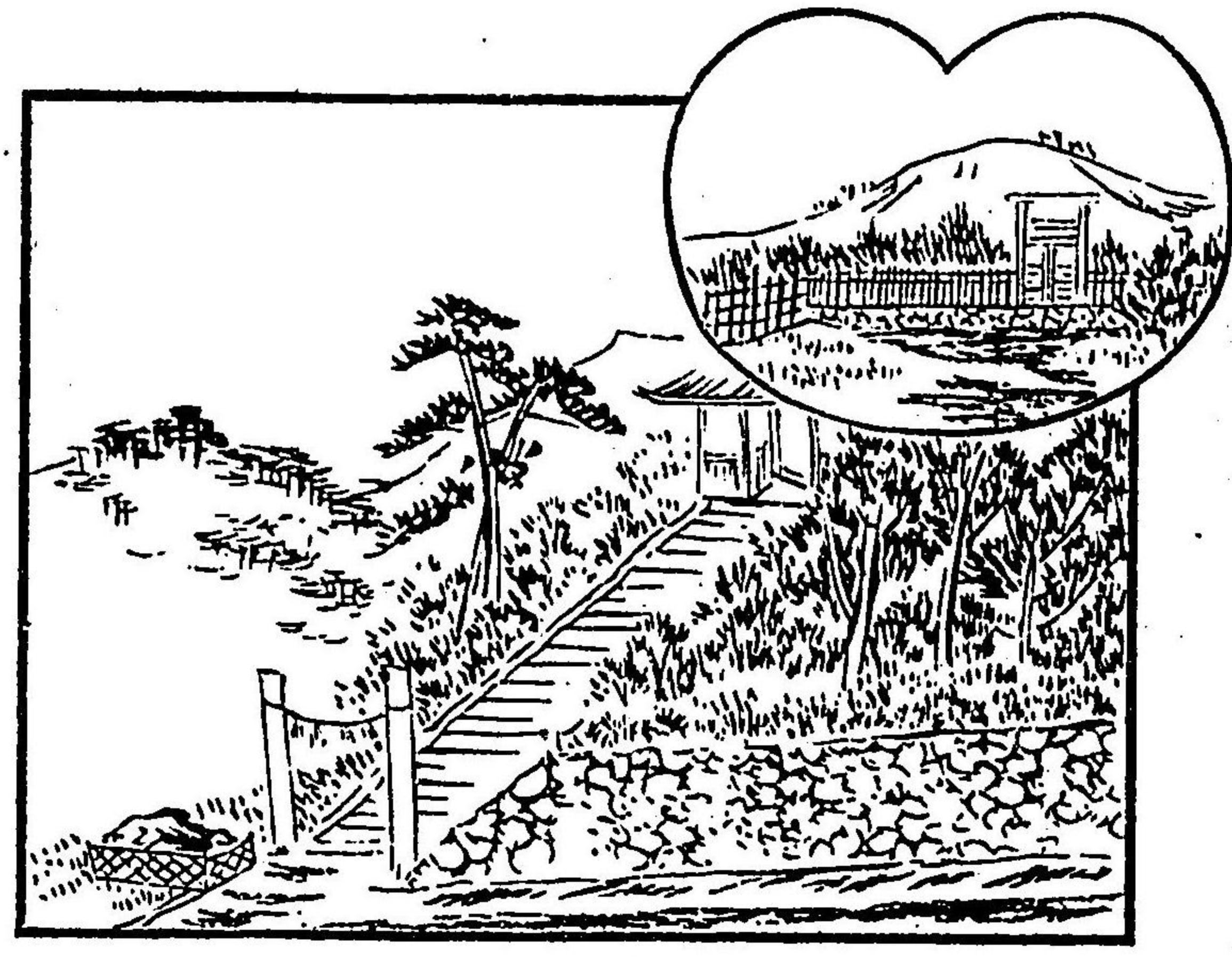
牛窓より瀬戸内海の景  
 色を眺めつ、西して、兒  
 島郡下津井港に着く、日  
 比田口と共に四國への  
 渡場にて、漁獵をなすも  
 の多し、味野の野崎氏は



富家にして多くの鹽田を有し盛んに鹽を製す、兒島灣の開墾工事を見、藤戸を経て都窪郡に入る、概平野にして北に少しの山を見るのみ、早島・妹尾茶屋町は、名高き花菘の産地にて、多く外國に輸出し、帶江の銅も亦名あり、倉敷町より汽車にて吉備郡庭瀨に歸る

吉備郡

庭瀨の北、鯉山の頂なる吉備津彦命の御陵



吉備津彦の御陵と吉備津神社の圖

に詣で、西に下りて吉備津神社に參拜す、禪宗を開きし僧榮西は、祠官賀陽氏の子にして支那より茶の實を得て歸りし人なりしと云ふ、總社及足守は郡の名邑なり、國道を西して箭田村に至り

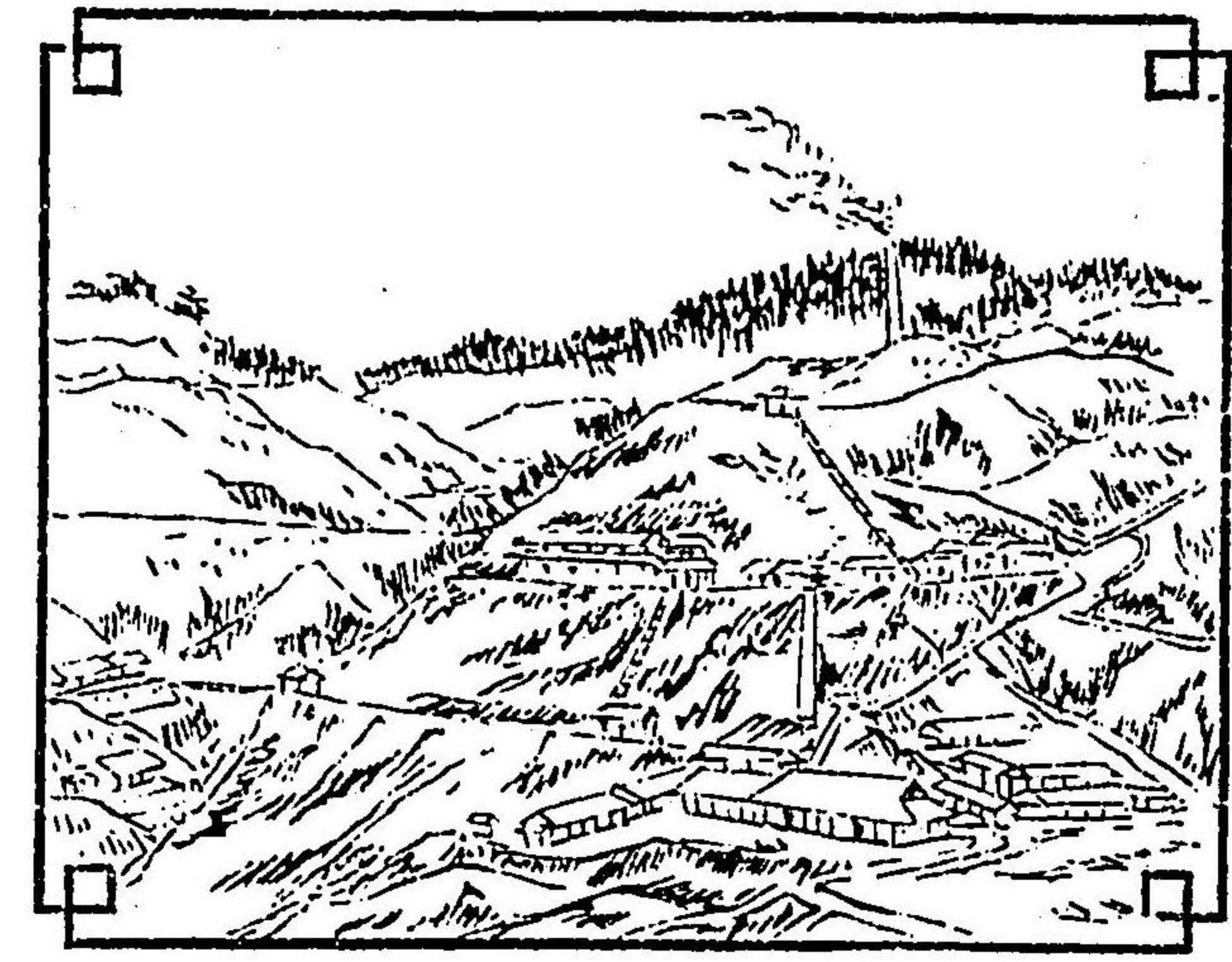


吉備眞備まびの墓はかを拜し、進んで浅口郡あしか郡あしかに向ふ  
浅口郡・小田郡・後月郡

高粱川に沿へる地方多く綿を産す、玉島驛より汽車にて西し、西山せうざい拙齋せうざいの生地なる鴨方がたを経て小田郡おた笠岡かさおかに着く、縣下の良港にして玉島港と共に麥稈眞田の主産地たり、海上には島多く、その最南なるを武島とす、北して矢掛町やかけに至り、更に西して後月郡井原町いはらに達す、西江原村にしやばらにある興讓館こうじやうかんは、今よ

り五十年前阪谷朗盧さかやろの設けしものなり

### 川上郡・阿哲郡・上房郡



吹屋銅山の圖

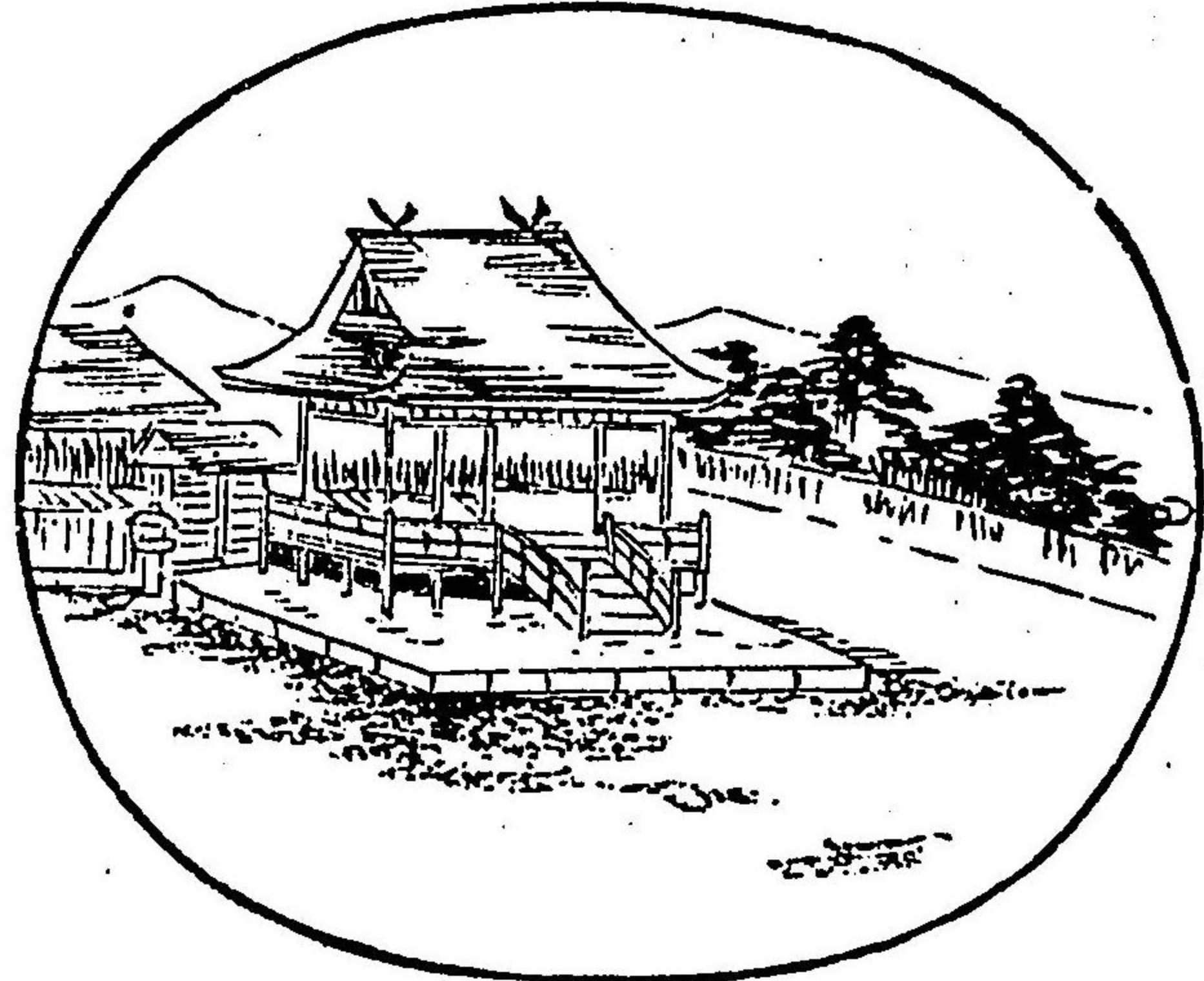
川上郡成羽町なりわの西北に當れる吹屋ふきやの銅山は縣下第一にして、一千餘年來盛んに銅を出す、山を踰こる阿哲郡に入れば、到處あち畜牧業行はれ、多くの牛馬を産す、ことに大



佐山近傍を盛んなりとす新見町より高梁川に沿ひて上房郡に入り、中津井村なる室鳩巢の生地を尋ね、高梁町に入る備中第一の市にして北臥牛山に城趾あり、上水田の鐘乳竇を一見し、進んで眞庭郡に向ふ

眞庭郡・苦田郡

落合より久世に出で山中煙草の製造を見、西して勝山に入る、その北なる湯原眞賀の温泉は何れも入浴者多く、神庭の瀑も亦名

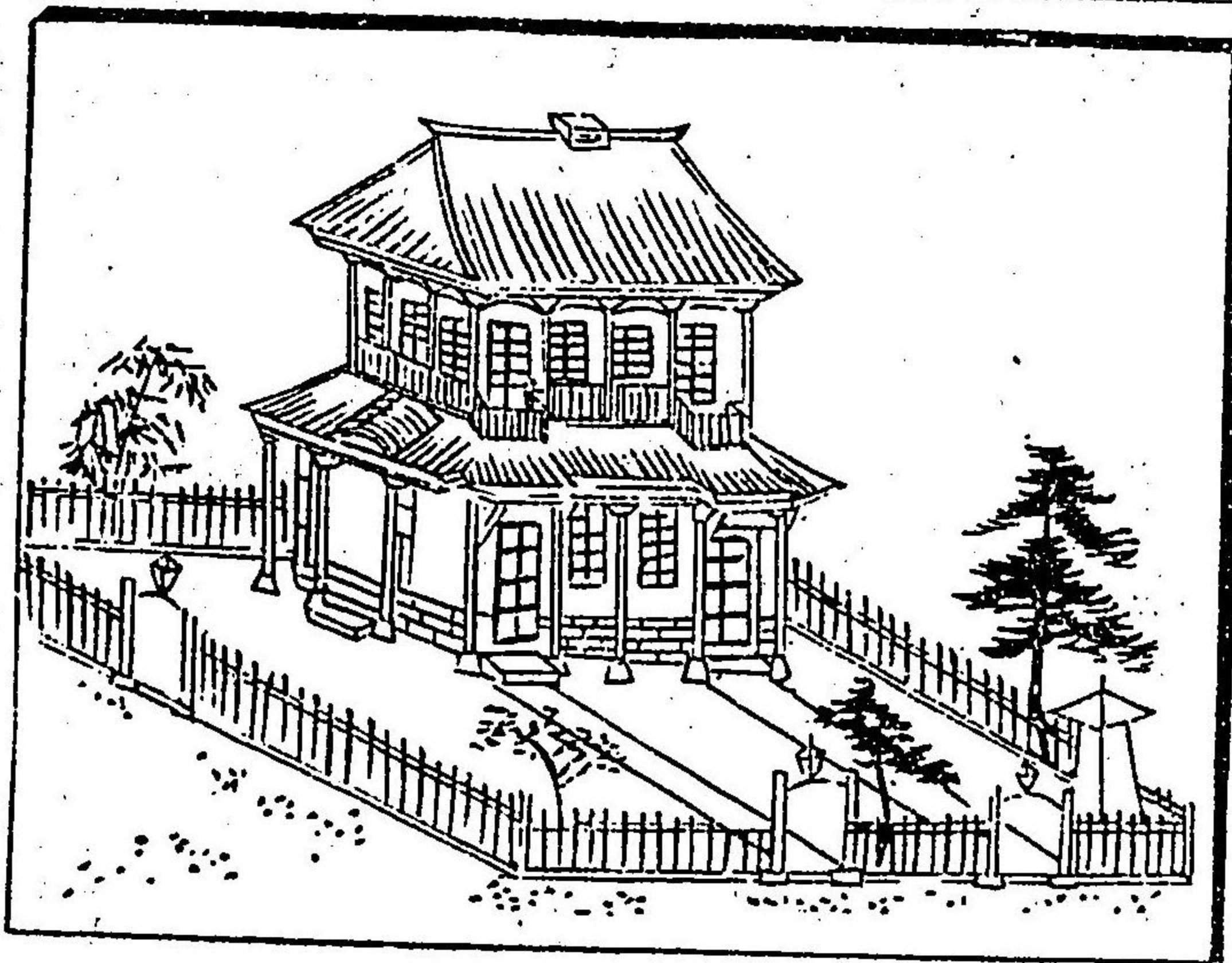


作樂神社の圖

あり、久世より國道を東し五里にして、苦田郡院庄に達す、兒島高德が櫻の樹に十字を記して、誠忠を顯はせし地なり、後醍醐天皇及公を祀れる作樂神社に參拜して津山町に入る、津山は美作第一の市にして商業盛んに雲齋織・足袋・初雪を名産と



す、その東北なる津川山は名高き森林にて  
湯郷温泉の園



杉の良材を出す

### 勝田郡・英田郡

那岐山は勝田郡の北境にある縣下第一の高山なり、その南は、則日本原野にて、この地方多く紙を製す、勝間田より湯郷に至り、鷺の湯に浴し、英

田郡倉敷町に入る、この地東作の商業地にして、北方古町は因幡街道の驛なり、近頃養蠶殖林の業盛んならんとす、繭及茶を郡の産物とす

圓光大師肖像



### 久米郡・御津郡

津山に歸り中國鐵道の汽車に乗れば間もなく久米郡誕生寺に着す、寺は淨土宗を弘



めし圓光大師の設けられしものにして師の生れし地なるが故に名あり、その南弓削は焼酎しよちゆの産を以て著る、旭川を渡りて御津郡に入り、建部なる八幡温泉やわたに浴し、汽車にて金川を過ぎ、金山の東を繞りて岡山市に着す、北部にある加茂山は備前第一の官林なり

附 録

郡市役所及位置

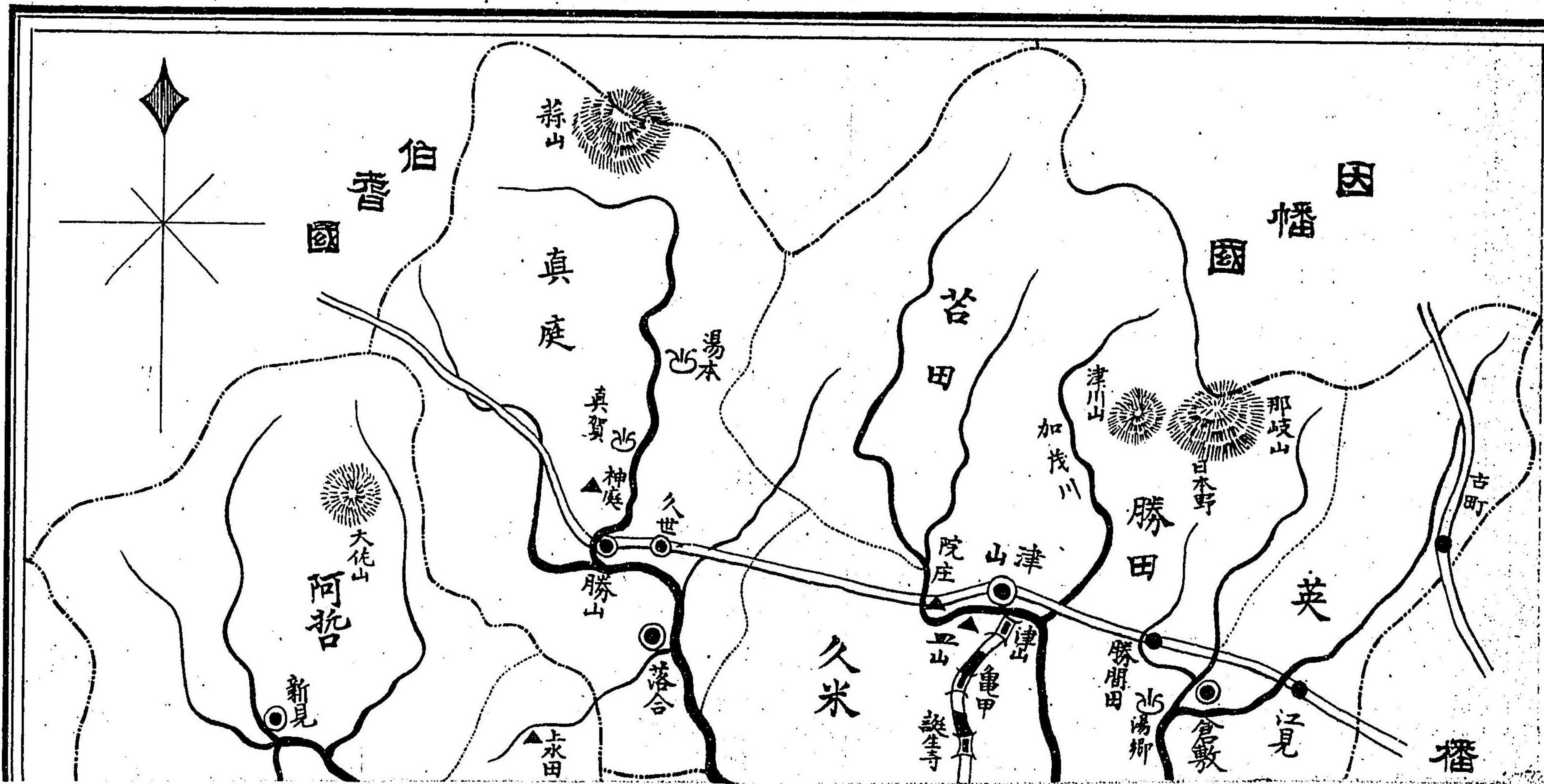
岡山市役所	岡山市大字東中山下
御津郡役所	御津郡石井村
上道郡役所	上道郡西大寺町
赤磐郡役所	赤磐郡物理村
和氣郡役所	和氣郡和氣町
邑久郡役所	邑久郡邑久村
兒島郡役所	兒島郡味野村
都窪郡役所	都窪郡倉敷町
淺口郡役所	淺口郡玉島町



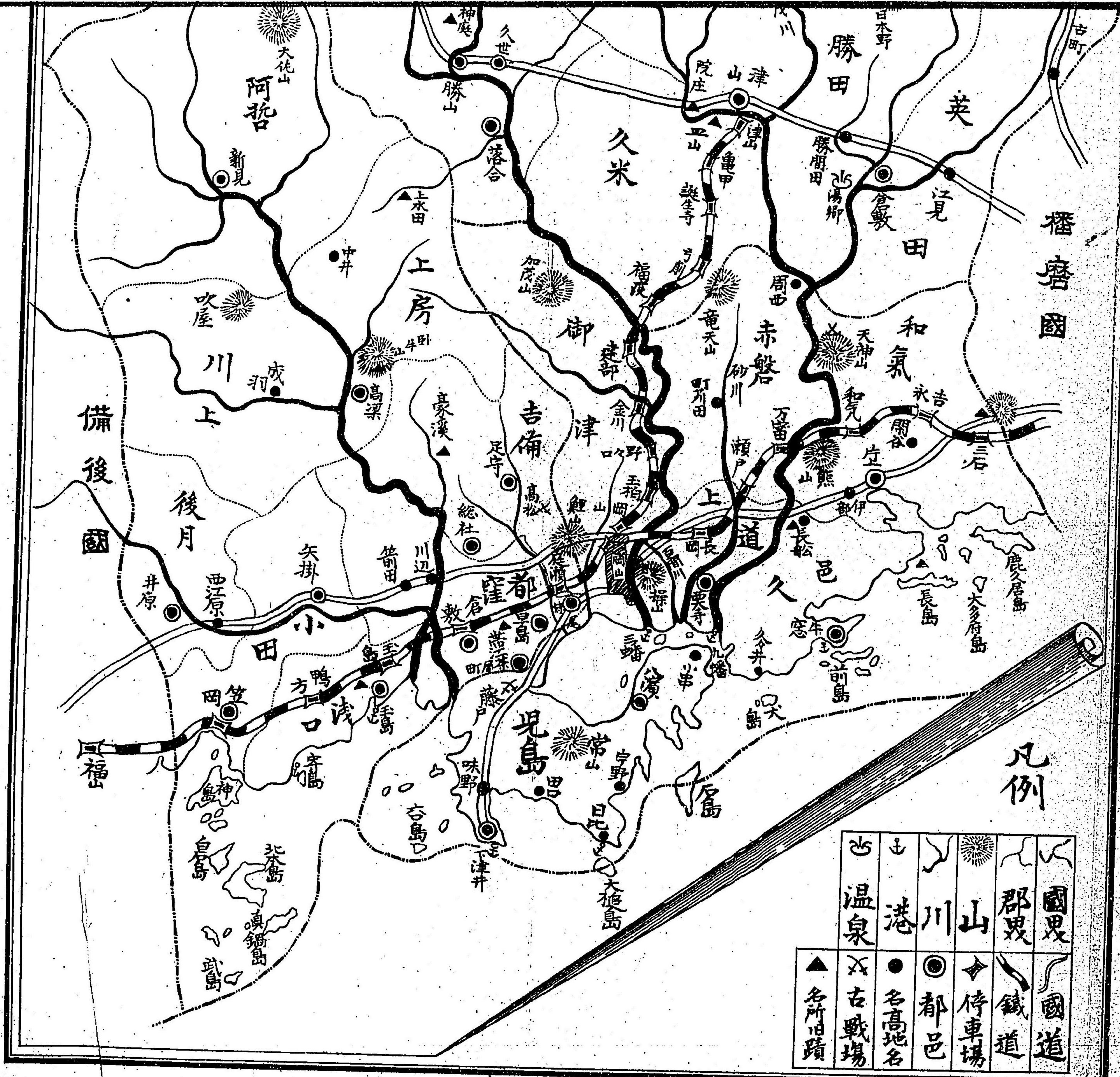
吉備郡役所  
小田郡役所  
後月郡役所  
川上郡役所  
阿哲郡役所  
上房郡役所  
真庭郡役所  
久米郡役所  
苫田郡役所  
勝田郡役所  
英田郡役所

吉備郡総社町  
小田郡笠岡町  
後月郡井原町  
川上郡成羽町  
阿哲郡新見町  
上房郡高梁町  
真庭郡勝山町  
久米郡豊岡村  
苫田郡津山町  
勝田郡勝間田村  
英田郡倉敷町









凡例

山	川	郡界	國界
温泉	港	停車場	鐵道
▲ 名所旧蹟	● 名高地名	◎ 都邑	〰 國道



學校

第六高等學校

岡山市國富

岡山醫學專門學校

岡山市內山下

岡山縣師範學校

岡山市西中山下

岡山縣岡山中學校

岡山市內山下

岡山縣津山中學校

苫田郡津山町

岡山縣高梁中學校

上房郡高梁町

岡山縣矢掛中學校

小田郡矢掛町

岡山縣農學校

吉備郡高松村

岡山縣商業學校

岡山市內山下

岡山縣工業學校

岡山市南方



岡山縣女子師範學校	岡山市大供
岡山縣高等女學校	岡山市大供
岡山縣津山高女學校	苫田郡津山町
私立關西中學校	御津郡石井村
私立金川中學校	御津郡金川村
私立閑谷中學校	和氣郡伊里村
興讓館	後月郡西江原村
金光中學	淺口郡吉備村
勝田英田郡立農林學校	勝田郡勝間田村
高梁順正女學校	上房郡高梁町

岡山縣誌終

明治三十七年四月五日印刷  
 明治三十七年四月十五日發行

編者 教材研究會

右代表者 玉谷俊吉

發行者 景山定四郎

岡山縣御津郡金川村大字金川九百八拾番地

印刷者 藤野楨太郎

岡山縣岡山市大字花畑百貳拾九番地

印刷所 金川活版所

岡山縣御津郡金川村大字金川九百八拾番地

發行所 景山書店

岡山縣御津郡金川村大字金川九百八拾番地

不許  
復製



明治三十七年四月五日印刷  
明治三十七年四月十五日發行

編者 教材研究會

右代表者 玉谷俊吉

發行者 景山定四郎

印刷者 藤野橫太郎

岡山縣岡山市大字花畑百貳拾九番地

印刷所 金川活版所

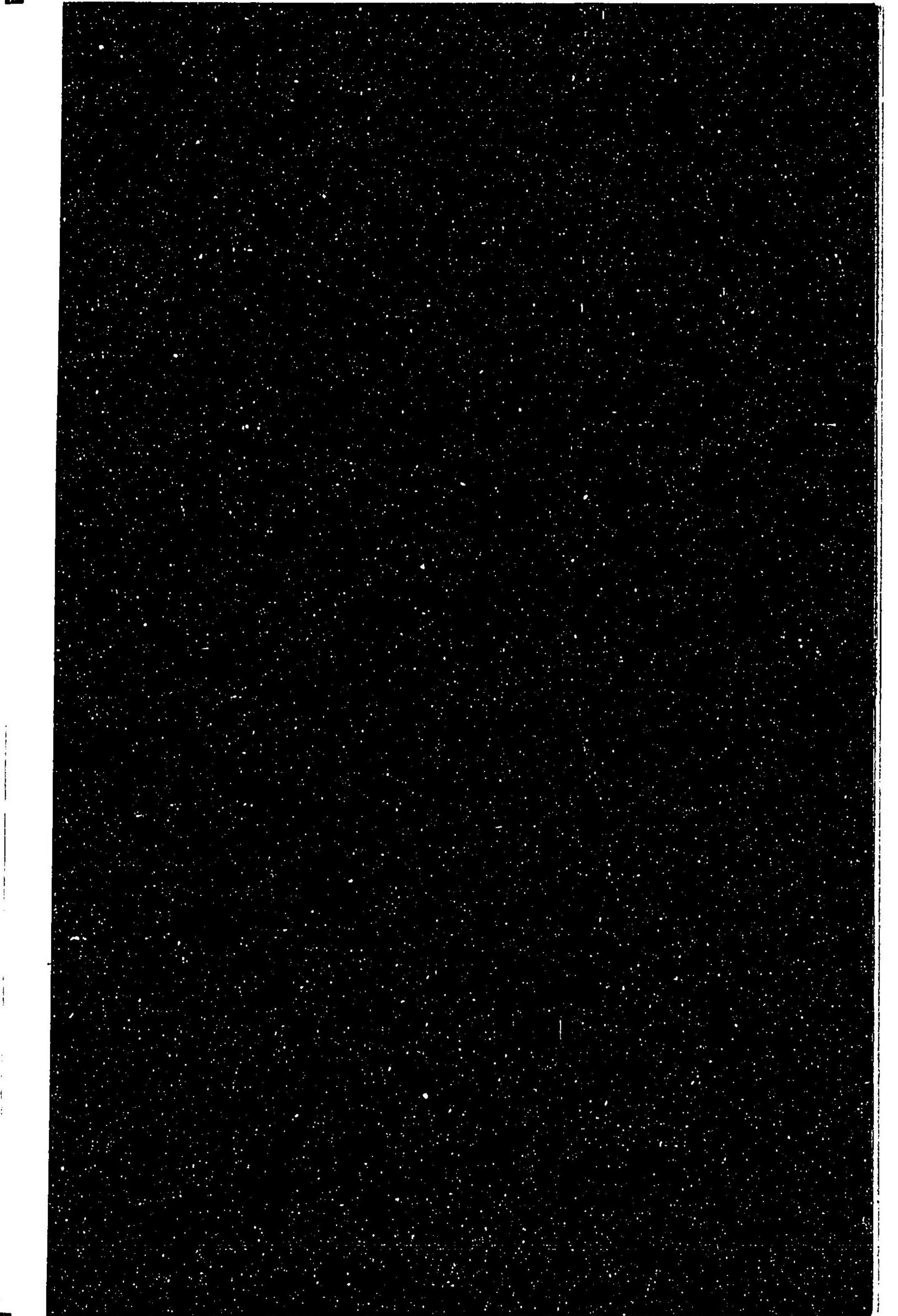
岡山縣御津郡金川村大字金川九百八拾番地

發行所 景山書店

岡山縣御津郡金川村大字金川九百六拾四番地

不許複製







111-111-111  
111-111-111



特46  
803

岡山県誌  
国立国会図書館

025792-000-9

特46-803

岡山県誌

教材研究会/編

M37

ADC-3329

